

目指せ**スピード10倍増!**

# 超高速開発・リノベーション

## フォーラム2013 Review

事例講演 日産自動車

### システムリフォーム手法を活用し 6万ラインのシステム刷新を10カ月で完了



日産自動車株式会社  
グローバル情報システム本部  
一般管理システム部 部長

**佐野 義仁氏**

日本を代表する自動車メーカーである日産自動車では、グローバル共通で利用するシステムの老朽化に直面していた。その1つが、自動車部品の購買業務システム「GTOP」である。

GTOPは「WACs」と呼ばれる固有のWebフレームワーク技術を利用して開発されており、コア部分にはカスタマイズも施されている。そのため「GTOPは当初開発に携わった以外の企業では、エンハンス開発が難しい上、スキル保持者でないと保守も行えません。それが運用維持コストの増大につながっていました」と日産自動車の佐野 義仁氏は語る。

今後の運用を考えると、オープン系への移行は必須。そこで、同社はUNIXサーバ上で稼働するアプリケーションの多くをJavaに変換し、

LinuxベースのITインフラ基盤に移行することを目指した。

その際、選択したのがソフトロードの「システムリフォーム」サービスである。「アプリケーションの改修・変換に加え、ハードを含めた刷新が必要。システムリフォームなら、それを一気に短期間で行えると判断しました」と佐野氏は述べる。

事前検証の結果も満足のいくものだった。「移行対象プログラム規模は6万ラインという膨大なもの。それに対し、バグ摘出数は3件と品質が高く、83%のオンライン処理と69%のバッチ処理もリユース可能でした」（佐野氏）。

#### 開発工数を3分の2に圧縮

当初、工期には18カ月を見込んでいた。しかし、システムリフォームを

採用した結果、実際の工期は10カ月で完了した。「アプリケーションのスリム化や基盤刷新により、操作がシンプルになった上、システムのレスポンスも約10倍向上しています」（佐野氏）。

この成果を踏まえ、同社は買掛システムや設備購買システムなどのシステムリフォームも実施。オープン環境への移行を実現している。「システムリフォームの効果は想定以上。今後もシステムの重要度や特性を見極めた上で、適材適所にシステムリフォーム手法を活用していきます」と佐野氏は最後に述べた。